

オール九州農水産物トレードフェアでの売り込み

シンガポール事務所

3月12日、ノボテルクラークキーのコンベンションルームを利用して「オール九州農水産物トレードフェア」が開催されました。その現場を視察する機会を得ましたので、同フェアの様子について報告します。

九州農業成長産業化連携協議会（事務局：九経連）とJETROの共催で行われた今回のトレードフェアはシンガポールでの実施は初めて。JETROと九経連がそれぞれ現地にもつバイヤーのネットワークを活用して開催を案内し、当日は輸入卸業者、飲食店、小売関係者等約130名が来場しました。

九州農業成長産業化連絡協議会は、産学官で構成され、九州の農業の成長産業化に向けて販売・加工・輸出等の拡大を図ることを目的として2012年に設立されました。オール九州でのフェア開催のきっかけは、「県単位ではなく、まとまった地域で商談会を行ってほしい」との要望が香港のバイヤーからあったことだそうです。去年は香港で同様のトレードフェアを実施しており、意欲がある企業にはアジア最大級の食品展示会 Food Expo に参加してもらい、今回のシンガポールは香港の次の市場として開催したそうで、今後はバンコクでの開催も視野に入れており、アジアへの農水産物売込に意気込みを感じました。

参加した魚の漬け（アジ、サバ、ブリ）を販売していた出展者は、来場者に商品を試食してもらい、良い反応があった様子でした。

JETRO シンガポール担当者の話では、一般的に日本産の肉・魚・米に対するバイヤーからのニーズは高いそうで、出展商品の中では、ゆずこしょうは香りが良く関心が高そうでした。同担当者からは輸出価格、賞味期限、販売可能数、コミュニケーション（英語）が商談会では必要になり、特に英語は、商談会後のメールでの連絡にも必要になると伺いました。また、輸出が軌道に乗るまで、最初は赤字が続く事の覚悟は必要で、どこまでの赤字に耐えられるかの線引きも必要であるとの話も伺い、出展するまでの準備のサポートも大切であると感じました。



商談会場の様子

（太田所長補佐 浜松市派遣）